

芝久保小学校 研究だより

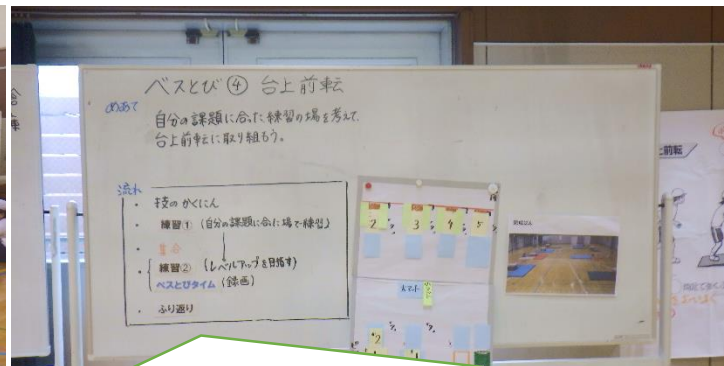
令和6年10月21日（月）
No.2
西東京市立芝久保小学校
校長 久森 信

中学年実践号

中学年分科会（体育実践）

《中学年分科会 目指す児童像》

自分の課題に気付き、課題解決のためにどのように工夫していけばよいかを考えられる児童



◎児童が自分の課題に気付き、考えて課題解決に取り組むための手立て

一単位時間内に、「課題に気付く」「練習」「振り返り」のサイクルを繰り返すことで、自分の課題にあった場を選び、工夫して練習することができるようにしました。また、1回目の練習タイムの後に、全体で振り返りをするすることで、再度自分の課題に合った練習の場や方法に気付いたり、工夫したりできるようにしました。

◎児童が考えをもつための手立て

学習カードに技のポイントと練習する場を対応させて、自分の課題に合った練習の場を選択することができるようにしました。



◎児童が考えをもつための手立て
タイムシフトカメラで直後に自分の動きを確認することで、練習の前と後で成果を確認することができるようにしました。



授業中に動画を見ながら自分の技がどうだったかを確認する姿が見られました。一人一台端末を活用することで、自身の動きを客観的に観察し、練習に取り組むことができます。今回の研究授業以外でも、ICT機器を活用しながら日々の学習を行っている先生もたくさんいます。また、そういった様子も学校公開や学校だより等で伝えていきたいと考えています。

今回の授業で子どもたちが取り組んでいた「跳び箱運動」。体育の学習の中で、得意・不得意が顕著に表れやすい領域になります。

「苦手な子も安心して学習に参加できるようにしたい。」

「技のポイントを考えながら練習できる子になってほしい。」

授業者の藤井先生の願いや子どもたちへの熱い想いが十分詰まった研究授業でした。

次回の授業研究は低学年分科会が行います。